

1 教育目標

自立と協調

自立…良いこと悪いことの判断をし、自分で決めて行動すること

協調…他者の意見を受け入れたうえで自分の意見も伝え、よりよい方向で一緒に活動していくこと

2 目指す学校像 「違いを認め、高め合う学校」

- (1) 児童にとって安全で、安心して通える学校
- (2) 教職員が、児童理解に努め、保護者・地域と力を合わせて教育活動にあたる学校
- (3) 保護者・地域住民にとって信頼がおけ、誇りに思える学校



3 中・長期的な目標

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力や学習への意欲を高め、確かな学力を育成する。
- (2) 人権尊重の理念に対する正しい理解を導くとともに、思いやりの心や規範意識を育て、豊かな人間性・社会性を育成する。(重点目標)
- (3) 体力を向上させるとともに、危険から身を守る能力や態度を育て、活力ある健康な児童を育成する。
- (4) 家庭・地域に開かれた学校づくりを進め、信頼・協力の関係を確立する。

4 今年度の重点目標と具体的方策

(1) 学力向上	(2) 豊かな人間性の育成	(3) 健全育成・安全指導	(4) 開かれた学校
<p>① 確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松林タイムでの「朝読書」や「対話型鑑賞」の実施 ・「はむらの授業指針」をもとにしたOJTの充実 ・「学びルート」を活用した学び方の獲得 ・クラウド上で同時編集・他者参照を活用した、協働的な学び <p>② 授業規律・特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席・話の聞き方・学習用具の管理への指導 ・個への適切な理解・支援による全ての児童の学習・生活上のニーズへの対応 <p>③ 学びの習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年×10分の家庭学習の定着 ・自主学習の取組 ・AIドリルの活用 	<p>① 人権・道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育プログラムを活用した教職員研修・授業の実施 ・「はむらの道徳科授業指針」をもとにした授業改善 ・羽村市動物公園と連携した「いのちの教育」の実施 <p>② 特別活動、生活指導の充実・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動(1)の実践による児童主体の活動の推進 ・縦割り班活動の常時活動化 <p>③ いじめ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ総合対策を活用した教職員研修、年に3回以上のいじめに関する授業の実施 ・いじめアンケートの実施(毎月) ・「おはなシート」の活用による児童の相談体制の強化 ・市教育委員会と連携した組織的な早期発見・対応の取組 	<p>① 体力向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上月間の設定と都・全校体カテストの実施 ・校庭の遊具等を活用した行間遊び <p>② 不登校対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー・登校支援コーディネーターを中心とした教育相談 ・市の教育相談室との連携 ・登校支援教室「にこにこルーム」の設置 <p>③ 安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した「一声指導」の実施と、週の指導計画を活用した計画的な安全指導 ・家庭と連携した生活習慣や食習慣、保健指導、アレルギー対応の充実・改善 	<p>① 保護者・地域とのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・学級・専科だより・HP等での情報発信 ・保護者対応・連携の充実 ・保護者・地域の各種ボランティア <p>② 開かれた教育課程の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> わくわくプロジェクトの実施 ・武蔵野美術大学「旅するムサビ」 ・市内建築家「鑑賞・創作活動」 ・CS「グランドカバープロジェクト」 ・PTA「学校美術館」 ・地域幼稚園保育園「交流活動」 ・羽村第二中学校「小中連携交流活動4・6年」 ・羽村特別支援学校「交流及び協働学習」 ・スイミングセンター「水泳・水遊び」 ・羽村図書館「朝学習・お話し会」 ・羽村市動物公園「わくわくZOOプロジェクト」 <p>③ 学校の教育改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS委員・保護者アンケート等をもとにした評価と改善

●上記方策を着実に実施するため、また、教職員が児童とかかわる時間を十分に確保するため、年間を通じて、会議の時間や回数の見直し、各分掌の業務を精選する等、働き方改革を推進する。